無用ノ日々

Vol. 02

花は何処へ行った

無用ノ日々

Vol. 02

花は何処へ行った

別に花を愛でる趣味もないし、ましてや花の名前など知らない。目にとまってしまったものにカメラを向けていたら、いつの間にか結構な枚数になっていた。ただそれだけの事。

観賞用に育てられた花も、野に咲く花も、植えられて忘れ去られた花も、皆、人間のくだらないセンチメンタリズムとは無縁に、ただ独り咲く。

いつものように漫然と歩きながら立ち止まり、ポケットから取り出したエコーをくわえ火を付ける。その足元の側溝に、もう散りかけのノコンギク。

どうでもいい物と思いながら、それでも美しいと思うのは何故だろう。

だからどうしたという事はない。カメラを構えてシャッターを切り終えれば、またいつものように歩き出すのだ。そんな小さな感傷などなかったかのように。

小さな花への思いなど。

3/20

TEL.26 7856

無用ノ日々
Vol. 02

編集・発行人
雑賀　崇

写　真
雑賀　崇

発行所
六文舎
和歌山県日高郡日高川町和佐 1579
http://www.rokumonsha.jp
info@rokumonsha.jp

発行日
2011 年 12 月 6 日

©Takashi Saika / ROKUMONSHA

自分を作るのはもうやめだ

今まで個展などで発表してきた作品は、どうしても「期待されるイメージに合う写真」を選択してしまう、ある意味小心な意識が働いていたと認めざるを得ない。

その頃は、まがいなりとも時代のアートシーンの端っこに引っ掛かるように活動しようともがいていたが、今やそんな物にも、いわゆる写真界なんてものにも無縁。ネットの世界でちょっと作品を発表したところで、ゴマメの歯ぎしり以下の事にしかならない。

この活動自体、所詮「無用」な事でしかない行為なのだ、取り繕ったところでどうなる。

実はこの「無用ノ日々」、コンセプトは10号まで出来ている。なのに今回、編集にかかった段階で、無性にイラッとして急遽変更したのがこの企画。デジカメを持ってからの画像を新旧かき集め、一気に仕上げた。

さて、次はどうなる事やら。

六文舎
rokumonsha.jp

無用ノ日々 Vol. 02